

府北部の活性化を

行政と大学が「連携機構」

大学の学生が
南部の人材

府は4日の府議会総務常任委員会で、府北部地域の活性化を目的に府内の大学などと連携して、地域課題の解決などをめざす組織「府北部地域・大学連携機構」（仮称）を構築する考えを明らかにした。

府北部には大学は1つしかないが、京都市など南部地域には約40の大学（短大を含む）があり、南部の大

学部の人材資源を生かして北
部の地域課題の解決や、公
共人材の育成などをはかる
ねらい。行政と大学が連携

してこのような組織をつくるのは全国的に初めてという。
機構に参加を予定するのは府のほか、舞鶴市や福知山市、京丹後市など府北部の5市2町と、大学では政策関係の学部を持つ府立大、同志社大、龍谷大など。また、一般財団法人・

地域公共人材開発機構やNPO、企業などの参加も予定されており、府北部に機構のスタッフが常駐して、活動することになるという。

機構の具体的な取り組みとしては、地域と大学との多種多様な連携事業のコーディネートを行い、具体的な地域課題についてプロジェクトをつくって解決をはかることや、そのような取り組みの実施を通して、公共的・地域的活動にたずさわる人材の育成をめざすとしている。

また、各大学の学生や研究者に府北部の研究フィールドを紹介、提供したり、大学や大学院の研究者らに府北部で現地講義などを行ってもらうための活動にも取り組むという。

府や5市2町などは今年2月に機構についての研究会をつくり、ワーキングや現地ヒアリングなどを実施、設立に向けて準備を進めている。
府では国の補助金を活用することも検討、来年度には機構を立ち上げたいとしている。